

○ 別表1 (学部の学科、研究科の専攻等の定員未充足の状況について)

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (a)/(b)×100 (%)
文学部	760	896	117.9%
人文学科	760	896	117.9%
教育学部	220	262	119.1%
教育学科	220	262	119.1%
法学部	850	985	115.9%
法学課程	850	985	115.9%
経済学部*	760	849	111.7%
経済学科	300	339	113.0%
経営学科	270	291	107.8%
1年次 (学科分属前)	190	219	115.3%
理学部**	1,200	1,343	111.9%
数学科	100	112	112.0%
物理学科	70	86	122.9%
化学科	150	164	109.3%
生物科学科	160	180	112.5%
地球科学科	120	138	115.0%
1～2年次 (学科分属前)	600	663	110.5%
医学部	1,355	1,434	105.8%
医学科	595	598	100.5%
(うち医師養成に係る分野)	(595)	(598)	(100.5%)
保健学科	760	836	110.0%
歯学部	360	371	103.1%
歯学科	360	371	103.1%
(うち歯科医師養成に係る分野)	(360)	(371)	(103.1%)
薬学部**	320	330	103.1%
1～3年次 (学科分属前)	240	242	100.8%
総合薬学科※17	80	88	110.0%
工学部	2,700	2,939	108.9%
応用理工系学科	640	679	106.1%
情報エレクトロニクス学科	720	789	109.6%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
機械知能工学科	480	519	108.1%
環境社会工学科	840	884	105.2%
3年次編入学 (各学科共通)	20	68	340.0%
材料工学科 (旧)	—	[11]	—
応用化学科 (旧)	—	[4]	—
情報工学科 (旧)	—	[12]	—
電子工学科 (旧)	—	[18]	—
システム工学科 (旧)	—	[11]	—
応用物理学科 (旧)	—	[31]	—
原子工学科 (旧)	—	[9]	—
機械工学科 (旧)	—	[11]	—
土木工学科 (旧)	—	[22]	—
建築都市学科 (旧)	—	[4]	—
環境工学科 (旧)	—	[6]	—
資源開発工学科 (旧)	—	[6]	—
農学部*	860	936	108.8%
生物資源科学科	108	115	106.5%
応用生命科学科	90	94	104.4%
生物機能化学科	105	109	103.8%
森林科学科	108	116	107.4%
畜産科学科	69	76	110.1%
農業工学科	90	91	101.1%
農業経済学科	75	85	113.3%
1年次 (学科分属前)	215	250	116.3%
1年次 (学科分属前) (旧)	—	[2]	—
獣医学部	240	263	109.6%
獣医学科	240	263	109.6%
水産学部**	860	929	108.0%
海洋生物科学科	54	53	98.1%
海洋資源科学科	53	36	67.9%
増殖生命科学科	54	54	100.0%
資源機能化学科	54	53	98.1%
1～2年次 (学科分属前)	430	472	109.8%
水産海洋科学科※17	40	52	130.0%
海洋生産システム学科※17	40	68	170.0%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
海洋生物生産科学科※17	60	71	118.3%
海洋生物資源化学科※17	60	70	116.7%
水産教員養成課程※17 (うち水産教員養成に係る分野)	15 (15)	0 (0)	0.0% (0%)
学士課程 計 [学科, 専攻の廃止後も在籍する学生数計]	10,485	11,537 [147]	110.0%
文学研究科	236	224	94.9%
思想文化学専攻	36	41	113.9%
歴史地域文化学専攻	76	70	92.1%
言語文学専攻	76	69	90.8%
人間システム科学専攻	48	44	91.7%
教育学研究科			
教育学専攻(旧)	—	[15]	—
法学研究科	40	49	122.5%
法学政治学専攻	40	49	122.5%
経済学研究科	60	58	96.7%
現代経済経営専攻	60	58	96.7%
経済システム専攻(旧)	—	[1]	—
現代経済経営専攻(旧)	—	[1]	—
理学研究科			
数学専攻(旧)	—	[1]	—
物理学専攻(旧)	—	[1]	—
化学専攻(旧)	—	[1]	—
医学研究科	60	60	100.0%
医科学専攻	60	60	100.0%
工学研究科	680	870	127.9%
応用物理学専攻	68	88	129.4%
有機プロセス工学専攻	50	72	144.0%
生物機能高分子専攻	40	54	135.0%
物質化学専攻	34	37	108.8%
材料科学専攻	60	81	135.0%
機械宇宙工学専攻	42	56	133.3%
人間機械システムデザイン専攻	40	55	137.5%
エネルギー環境システム専攻	40	54	135.0%
量子理工学専攻	34	51	150.0%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
環境フィールド工学専攻	46	39	84.8%
北方圏環境政策工学専攻	36	59	163.9%
建築都市空間デザイン専攻	36	47	130.6%
空間性能システム専攻	44	55	125.0%
環境創生工学専攻	56	58	103.6%
環境循環システム専攻	54	64	118.5%
水産科学研究科			
生命資源科学専攻(旧)	—	[1]	—
地球環境科学研究科			
物質環境科学専攻(旧)	—	[1]	—
国際広報メディア研究科			
国際広報メディア専攻(旧)	—	[10]	—
情報科学研究科	354	417	117.8%
複合情報学専攻	48	60	125.0%
コンピュータサイエンス専攻	48	64	133.3%
情報エレクトロニクス専攻	78	85	109.0%
生命人間情報科学専攻	66	62	93.9%
メディアネットワーク専攻	60	82	136.7%
システム情報科学専攻	54	64	118.5%
水産科学院	180	199	110.6%
海洋生物資源科学専攻	86	95	110.5%
海洋応用生命科学専攻	94	104	110.6%
環境科学院	322	276	85.7%
環境起学専攻	88	58	65.9%
地球圏科学専攻	74	65	87.8%
生物圏科学専攻	104	103	99.0%
環境物質科学専攻	56	50	89.3%
理学院	406	427	105.2%
数学専攻	92	94	102.2%
化学専攻	112	124	110.7%
量子理学専攻	48	39	81.3%
宇宙理学専攻	36	36	100.0%
自然史科学専攻	78	87	111.5%
生命理学専攻	40	47	117.5%
農学院	300	343	114.3%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率	学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
共生基盤学専攻	96	80	83.3%	医学研究科	420	434	103.3%
生物資源科学専攻	84	99	117.9%	医学専攻	200	192	96.0%
応用生物学専攻	36	66	183.3%	生体機能学専攻※18	40	11	27.5%
環境資源学専攻	84	98	116.7%	病態制御学専攻※18	60	98	163.3%
生命科学院	270	282	104.4%	高次診断治療学専攻※18	48	65	135.4%
生命科学専攻	270	282	104.4%	癌医学専攻※18	24	35	145.8%
教育学院	90	85	94.4%	脳科学専攻※18	28	10	35.7%
教育学専攻	90	85	94.4%	社会医学専攻※18	20	23	115.0%
国際広報メディア・観光学院	84	93	110.7%	内科系専攻 (旧)	—	[1]	—
国際広報メディア専攻	54	59	109.3%	外科系専攻 (旧)	—	[4]	—
観光創造専攻	30	34	113.3%	歯学研究科	168	142	84.5%
保健科学院	26	31	119.2%	口腔医学専攻	168	142	84.5%
保健科学専攻	26	31	119.2%	薬学研究科			
修士課程 計	3,108	3,414	109.8%	生体分子薬学専攻(旧)	—	[4]	—
[学科, 専攻の廃止後も在籍する学生数計]	—	[32]	—	創薬化学専攻(旧)	—	[2]	—
文学研究科	177	269	152.0%	工学研究科	255	243	95.3%
思想文化学専攻	27	44	163.0%	応用物理学専攻	24	21	87.5%
歴史地域文化学専攻	57	92	161.4%	有機プロセス工学専攻	18	12	66.7%
言語文学専攻	57	77	135.1%	生物機能高分子専攻	15	17	113.3%
人間システム科学専攻	36	56	155.6%	物質化学専攻	15	12	80.0%
教育学研究科	21	76	361.9%	材料科学専攻	21	16	76.2%
教育学専攻※18	21	76	361.9%	機械宇宙工学専攻	15	15	100.0%
法学研究科	45	57	126.7%	人間機械システムデザイン専攻	15	16	106.7%
法学政治学専攻	45	57	126.7%	エネルギー環境システム専攻	15	13	86.7%
経済学研究科	45	28	62.2%	量子理工学専攻	15	11	73.3%
現代経済経営専攻	45	28	62.2%	環境フィールド工学専攻	15	7	46.7%
経済システム専攻 (旧)	—	[12]	—	北方圏環境政策工学専攻	15	23	153.3%
現代経済経営専攻 (旧)	—	[7]	—	建築都市空間デザイン専攻	15	16	106.7%
経営情報専攻 (旧)	—	[1]	—	空間性能システム専攻	15	11	73.3%
理学研究科				環境創生工学専攻	21	23	109.5%
数学専攻(旧)	—	[10]	—	環境循環システム専攻	21	30	142.9%
物理学専攻(旧)	—	[8]	—	システム情報工学専攻 (旧)	—	[2]	-
化学専攻(旧)	—	[8]	—	電子情報工学専攻 (旧)	—	[1]	-
生物科学専攻(旧)	—	[12]	—	量子物理工学専攻 (旧)	—	[1]	-
地球惑星科学専攻(旧)	—	[13]	—	量子エネルギー工学専攻 (旧)	—	[1]	-

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
機械科学専攻 (旧)	—	[2]	-
都市環境工学専攻 (旧)	—	[3]	-
環境資源工学専攻 (旧)	—	[3]	-
農学研究科			
生物資源生産学専攻(旧)	—	[19]	-
環境資源学専攻(旧)	—	[16]	-
応用生命科学専攻(旧)	—	[7]	-
獣医学研究科	96	91	94.8%
獣医学専攻	96	91	94.8%
水産科学研究科			
環境生物資源科学専攻 (旧)	—	[10]	-
生命資源科学専攻 (旧)	—	[6]	-
地球環境科学研究科			
地圏環境科学専攻 (旧)	—	[2]	-
生態環境科学専攻 (旧)	—	[5]	-
物質環境科学専攻 (旧)	—	[2]	-
大気海洋圏環境科学専攻 (旧)	—	[3]	-
国際広報メディア研究科	14	22	157.1%
国際広報メディア専攻※18	14	22	157.1%
情報科学研究科	126	148	117.5%
複合情報学専攻	12	29	241.7%
コンピュータサイエンス専攻	24	15	62.5%
情報エレクトロニクス専攻	24	25	104.2%
生命人間情報科学専攻	18	22	122.2%
メディアネットワーク専攻	24	35	145.8%
システム情報科学専攻	24	22	91.7%
水産科学院	105	97	92.4%
海洋生物資源科学専攻	51	45	88.2%
海洋応用生命科学専攻	54	52	96.3%
環境科学院	192	144	75.0%
環境起学専攻	45	21	46.7%
地球圏科学専攻	45	35	77.8%
生物圏科学専攻	69	64	92.8%
環境物質科学専攻	33	24	72.7%
理学院	255	153	60.0%

学部の学科、研究科の専攻等名	収容定員	収容数	定員充足率
数学専攻	51	21	41.2%
化学専攻	66	43	65.2%
量子理学専攻	30	14	46.7%
宇宙理学専攻	24	19	79.2%
自然史科学専攻	60	44	73.3%
生命理学専攻	24	12	50.0%
農学院	150	135	90.0%
共生基盤学専攻	48	43	89.6%
生物資源科学専攻	42	28	66.7%
応用生物科学専攻	18	26	144.4%
環境資源学専攻	42	38	90.5%
生命科学院	126	100	79.4%
生命科学専攻	126	100	79.4%
教育学院	42	29	69.0%
教育学専攻	42	29	69.0%
国際広報メディア・観光学院	34	25	73.5%
国際広報メディア専攻	28	18	64.3%
観光創造専攻	6	7	116.7%
博士後期課程 計	2,271	2,193	96.6%
[学科、専攻の廃止後も在籍する学生数計]	—	[165]	—
法学研究科	300	260	86.7%
法律実務専攻	300	260	86.7%
経済学研究科	40	46	115.0%
会計情報専攻	40	46	115.0%
公共政策学教育部	60	73	121.7%
公共政策学専攻	60	73	121.7%
専門職学位課程 計	400	379	94.8%

(注1) ※16 を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成 16 年度をもって募集を停止した専攻及び学科を、※17 を付した研究科の専攻及び学部の学科は、平成 17 年度をもって募集を停止した専攻及び学科を、※18 を付した研究科の専攻は、平成 18 年度をもって募集を停止した専攻を示す。

(注2) \* を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、2～4 年次を示す。

(注3) \*\* を付した学部の各学科における収容定員及び収容数は、3～4 年次を示す。

○ 計画の実施状況等

1 定員充足率が90%未満の主な理由

【学士課程】

学部の学科等	主な理由
水産学部 ・海洋資源科学科 ・水産教員養成課程※17	水産学部は、平成18年度の組織再編後初めての学科分属であったが、留年し新学科に分属しなかった者の数が、海洋資源科学科に直接反映され収容数が下回った。年次進行に伴い留年者が進級し解消する予定である。 水産教員養成課程の学生定員については、各学科に均等になるよう学生を配属しているため、収容数が0人となった。なお、当該課程は、組織再編に伴い学生募集を中止しており、年次進行で解消する予定である。

【修士課程】

研究科の専攻等	主な理由
工学研究科 ・環境フィールド工学専攻	退職した教員の分野における平成19年度の進学希望者が一時的に減少したことにより収容数が下回った。後任の教員補充や10月入学者の受入れなどにより、充足率は昨年度より上昇している。
環境科学院 ・環境起学専攻 ・地球圏科学専攻 ・環境物質科学専攻	学生確保のための広報が不足していたこと、想定していた人数以上に入学辞退者がいたことにより、収容数が下回った。
理学院 ・量子理学専攻	学生確保のための広報が不足していたことにより、収容数が下回った。
農学院 ・共生基盤学専攻	異動した教員の分野における進学希望者が減少したこと及び学生募集に際し、専攻の領域横断的な特色についての広報が不足していたことにより、収容数が下回った。

【博士後期課程】

研究科の専攻等	主な理由
経済学研究科 ・現代経済経営専攻	博士後期課程修了後の就職状況の悪化に伴い、博士後期課程志願者が減少したことにより、収容数が下回った。
医学研究科 ・生体機能学専攻※18 ・脳科学専攻※18	基礎医学分野から構成される専攻であること、平成16年度から必修化された新臨床研修制度により、志願者が減少し収容数が下回った。なお、当該専攻は平成19年度の組織再編に伴い、学生募集を中止しており、年次進行で解消する予定である。
歯学研究科 ・口腔医学専攻	平成18年度から義務付けられた1年間の卒後臨床研修により、18年度に入学した新卒者が0名となるなど志願者が減少し、今年度もその影響により、収容数が下回った。
工学研究科 ・応用物理学専攻 ・有機プロセス工学専攻 ・物質化学専攻 ・材料科学専攻 ・エネルギー環境システム専攻 ・量子理工学専攻 ・環境フィールド工学専攻 ・空間性能システム専攻	昨年度までの好景気により、修士課程学生に対する企業の求人活動が活発となり、多くの修士課程修了者が企業等に就職したため、博士後期課程進学希望者が減少したこと、及び在学期間を短縮して修了した学生がいることから収容数が下回った。 なお、秋期入学の実施により、10月入学者を工学研究科全体で29名受け入れた。
情報科学研究科 ・コンピュータサイエンス専攻	多くの修士課程修了者が企業等に就職し、博士後期課程進学希望者が少なかったことから収容数が下回った。
水産科学院 ・海洋生物資源科学専攻	近年の経済状況の悪化により学資の確保が困難なこと及び博士後期課程修了者の就職状況が改善しないことから進学希望者が減少し、収容数が下回った。
環境科学院 ・環境起学専攻 ・地球圏科学専攻 ・環境物質科学専攻	環境起学専攻は、修士課程の半分を占める統合コースが高度職業人養成を主たる目的としているため、修士課程修了時に就職する学生が多いこと、その他の専攻については、博士後期課程修了者の就職状況が改善しないことなどから進学希望者が減少し、収容数が下回った。
理学院 ・数学専攻	これらの分野における研究・開発職の需要が低迷していること及び学生確保のための広報が不足していたた

研究科の専攻等	主な理由
<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学専攻</li> <li>・量子理学専攻</li> <li>・宇宙理学専攻</li> <li>・自然史科学専攻</li> <li>・生命理学専攻</li> </ul>	め、収容数が下回った。
農学院 <ul style="list-style-type: none"> <li>・共生基盤学専攻</li> <li>・生物資源科学専攻</li> </ul>	学生確保のための広報が不足していたこと及び関連業界、研究機関からの修士課程修了者に対する求人増により進学希望者が減少し、収容数が下回った。
生命科学学院 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生命科学専攻</li> </ul>	これらの分野における研究・開発職の社会的需要が低迷しているため、収容数が下回った。
教育学院 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育学専攻</li> </ul>	博士後期課程修了後の就職状況の悪化に伴い、博士後期課程志願者が減少したことにより、収容数が下回った。
国際広報メディア・観光学院 <ul style="list-style-type: none"> <li>・国際広報メディア専攻</li> </ul>	博士後期課程修了後の就職不安、修士修了者の就職状況の好転による進学希望者の減少により、収容数が下回った。

#### 【専門職学位課程】

研究科の専攻等	主な理由
法学研究科 <ul style="list-style-type: none"> <li>・法律実務専攻</li> </ul>	入学定員は100名であり、収容定員は3年課程として300名となっているが、入学者のうち半数が法学既修者を対象とした2年課程であり、2年修了時に半数の50名が修了するため、収容数を下回っている。(実質的な収容定員は250名である)。

## 2 秋期入学の実施状況及び入学者数

修士課程	法学研究科	5名
	工学研究科	10名
	情報科学研究科	2名
	環境科学院	5名
	理学院	3名
	農学院	5名
博士後期課程	生命科学学院	0名
	法学研究科	1名
	工学研究科	29名
	獣医学研究科	8名
	情報科学研究科	10名
	水産科学院	12名
	環境科学院	3名
	理学院	18名
	農学院	7名
	生命科学学院	9名
国際広報メディア・観光学院	2名	